

## 中国の投資信託——一〇余年で急成長

小林 和子

### はじめに

二年前の中国投資信託に関する出版物は意気盛んで、「中国は長期的なブルマーケットの状況だ」という判断をしていた。理由は、中国経済の長期高度成長、人民元の価値上昇継続、そして「股權分置改革」の実施にあった。「股權分置改革」とは株式が大きく流通株式（民間保有）と非流通株式（国有株式）とに分かれていたものを、期限を区切って非流通株式を消滅させる改革である。現

在、高度成長はやや鈍り（二〇〇九年目標八%前後）、人民元は対ドル安定政策（一ドル＝六・八三元前後）が採られ、非流通株式の消滅は「流通株式数の増加」として良くも悪くもこれから効果が出てくるところだ。中国の投資信託にとってはよりきめ細かな分析と判断力が必要な時代になったといえよう。

### 歴史と法制

中国では投資信託を「投資基金」あるいは「基

金」という。

投資信託の起源は一九世紀後半のイギリスに求められるが、日本に入ってきたのは一九三〇年代、中国にはさらに遅れて入った。革命前の混乱期の中国には株式や国債は存在しても、広く大衆資金を集めて専門家が運用する投資信託の概念が浸透する余地はなかった。革命後、株式会社のない時代には無論のことである。中国の証券市場が多くの面で持つ「歴史遺留問題」は投資信託の分野には存在しない。

改革開放が進み、株式会社が増え、一九九〇年末の上海に続き、深圳証券取引所も創設された。一九九一年七月、香港基金の発展に刺激されて、珠信基金（六九三〇万元）が成立した。これが中国で最初の基金である。その後、武漢基金と南山基金が続いた。翌一九九二年八月に金華市信託投資会社の金信基金が同社証券部で株式取引同様の競

争価格方式で取引された。同時に、国内・基金管理專業として最初の深圳投資基金管理会社が設立された。一月に同社の「天驥基金」（全国的基金中最大規模の五・八一億元）が認可を受け、さらに「比較的形式的に整った」最初の投資基金である淄博郷鎮企業投資基金（一億元）が正式に設立された。同基金は会社型かつ閉鎖式（クローズドエンド）で、一九九三年八月に上海取引所に上場された。天驥基金や藍大基金は深圳取引所に上場された。ここで早くも全国的規模の投資基金の市場が誕生したのである。前後して設立された多くの投資基金の発行地は広東、黒竜江、深圳、瀋陽、大連、海南、江蘇等で、とりわけ深圳に集中した。こうした設立熱は、規制法令がないまま各地に発生した「基金に対する越権審査」の結果でもあった。このため基金審査にルールを定め、市場の無法な拡大を規制する必要が生じた。一九九

三年五月一九日に中国人民銀行は投資基金の発行と上場及び投資基金管理会社の設立を中国金融機関が海外で設立した基金・会社に限り、中国人民銀行総行が認可することとした。基金業は停滞し、この後一九九八年上半期までに認可されたのは金龍基金、宝鼎基金、建業基金の三本に止まった。

基金に関して最初の規制法令は一九九七年一月一四日国務院証券管理委員会「証券投資基金管理暫行弁法」である。翌九八年三月二七日に中国证券監督管理委員会の批准を経て成立した南方基金管理会社と国泰基金管理会社がそれぞれ二〇億元規模の閉鎖式基金を設立した。基金開元と基金金泰である。両基金が中国投資基金の実質的幕開けになったと考えれば、二〇〇八年で基金業は一〇周年になった。一九九九年には基金管理会社は一〇社に増えた。閉鎖式基金（当時すべて契約

型）は買戻しできず、資金回収が必要ならば流通市場で売却することになる。長期投資性に優れ、現在でも機関投資家（大半は保険会社）の保有が多い。二〇〇〇年一月八日に証監会は「開放式証券投資基金試点弁法」を發布し、二〇〇一年九月発行の華安創新基金（価値型）、南方穩健成長基金（バランス型）及び同年二月発行の華夏成長基金（成長型）の三本で、開放式基金（オープンエンド）が開始された。以来、開放式基金を中心とした発展が続いている。同弁法では基金の最低購入金額を規定しておらず、各基金が発行の都度基金方案の中で規定する。華安創新基金の例では個人投資家と機関投資家に各五〇％振分け、発行時間では個人を優先する。個人の購入下限額は一万元（一元＝一四円とすれば一四万円）、機関投資家は三〇万元で累計の上限は五億元である。購入費用は購入金額の五％以内、買戻し費用は三

%以内である。基金の規模は一億元台では小規模（巨田基礎行業など）、一〇〇億元を超えればかなり大規模（広発集豊など）といえる。基金市場の発展を受けて、二〇〇四年六月一日には現行「証券投資基金法」（全二二章一〇三条）が施行された。

さて、中国市場特有の事情として閉鎖式（現行法上は「非オープン型」）基金に対する強い規制政策がある。閉鎖式基金の多くは大規模投資会社・証券会社が設定したが、初期には不祥事もあったため証監会は上場審査を厳格にした。その結果、上場基金の数は比較的少なく基金管理会社も一〇社に集中したため、投資家の人気を呼び、投機現象も看取された。二〇〇二年八月、銀豊基金の発行を最後に閉鎖式基金は発行されず、数は五四本に固定された。結果として、九〇年代末に設定された基金の満期が二〇〇七年を中心に集中

し、二〇〇六〇八年の三年で約半数が終了した。

二〇〇四年の新法第七一条は閉鎖式基金市場を整理・活性化するために、その転換を明確に規定した。転換とは終了繰上げによる清算あるいは開放式基金への転換を意味し、以下の三種類がある。

法第七五条により持分の過半数の参加、三分の二以上の議決で、転換方式を決定できる。但し、直近二年間に基金管理人に違法行為があった場合には、基金の拡大募集も契約期限の延長も認められない。基金契約が終了すれば法第六八条で基金は清算される。

一、直接に開放式基金に転換 保有者総会の決議を経て当局の承認を得、転換

二、開放式基金との合併 一あるいは複数の閉鎖式基金が一の開放式基金と合併

三、開放式基金へ漸次転換 保有者総会の決議を経て「開放日」を決め、当該日に保有者は

純資産価値で所有分を買い戻す（ほぼ一年以内）

開放式基金への転換（と閉鎖式基金の消滅）政策が進められた背景には、二〇〇四年当時の株価の下落、基金の投資特性の変化、管理費用の増加などへの対応があった。バランス型の華夏平穩增長基金（二〇〇六年八月成立）は満期に閉鎖式から開放式に転じた最初の例である。同様の大成創新成長（二〇〇七年六月成立）もその後の業績が良い。これに対し、残る閉鎖式基金（伝統的に偏株型）の二〇〇七年度の業績では七割が配当を出せなかった。しかし新規設立禁止は緩められ、大成優先（二〇〇七年八月一日）、富国天豊（債券基金、二〇〇八年一〇月二四日）などが設立されている。

株式市場が絶好調であった二〇〇六年に家計・個人資金が基金投資に集中したのは、一九八〇年

代初めに農村で一攫千金を夢見て「養鶏專業」家がたくさん登場したのと同じような現象だといわれる。二〇〇六年末に純資産額が大きく増大した上位一五基金はいずれも株式型で、一六八・九三％～一三二・六四％の伸び率を実現した。二〇〇三～二〇〇八年の開放式基金（債券基金を除く）四〇の平均業績は一五四・二二％である。

### 投資信託の種類

歴史は僅か一〇年余りであるが、中国の投資基金には開放式と閉鎖式、会社型と契約型、投資リスクと収益による分類（成長型、収入型、バランス型）など主要な種類は備わっている。中国と外国の合資基金管理会社も増え、営業サービスも改善されてきた。二〇〇七年には「上場開放式基金（LOF）」も登場した。以下では投資対象による

分類を紹介する。

**株式型基金** 基金資産の六〇%以上を株式に投資する。株式型と次項の偏株型はリスクを理解する青年層に人気があるようだ。投資対象の特性により企業規模別（大、中、小など）、業種別（基礎業種、銀行業など）、投資策略別（新増長、成長、新趨勢、核心価値、配当精選など）が名称に表現されている。管理費は一・五%である。

**混合型基金** 株式債券バランス型は株式投資への配分の平均値と債券への配分の平均値の間の差が一般に五%以内である。偏株型は株式投資が主で、その比率の平均値を債券投資比率の平均値より大きくし、差は一般に一〇%以上になる。この反対が偏債型である。

**債券型基金** 債券基金とは弁法で「百分の八十の資産を債券に投資するもの」と定められている。二〇〇二年九月の南方宝元から始まった。純

債券型基金（一切株式投資をしない）と、新株購

入は行なうが積極的に株式投資はしない（株式が一〇〜一五%位）基金の二種類がある。純債券型は少なく、転換社債や新株引受権付社債保有の結果新株式を保有することはあっても上限比率があり、六〇日以内に売出すなどとしている（華夏債券の例）。株式投資をするタイプは、さらに一級債基（発行市場でのみ購入）と二級債基（流通市場で購入）に分けられる。一定程度株式を保有する基金はこの数年のブルマーケットの余慶を受け「一挙両得」となった。二〇〇八年には株価の暴落で株式型よりも債券型基金の設定が多くなった（二〇〇二〜七年の成立数二八に対して、二〇〇八年中には三三成立）。

**元本確保型基金** 満期時に全部あるいは一部の投資元本を確保させる、あるいは一定比率で確保させることを約束する基金である。二〇〇七年の

2008年末基金の数（QDII基金<sup>(1)</sup>を除く）

閉鎖式基金		32
株式基金	株式型	164
	指数型	19
混合基金	偏株型	59
	バランス型	42
	偏債型	8
債券基金	債券型	82
	中短債型	1
その他基金	元本確保型	5
	特殊策略	5 <sup>(2)</sup>
貨幣市場基金	(A級)	40
	(B級)	11
（ 計：閉鎖式含め468 ）		

〔資料〕 中国証券投資基金2008年業績統計報告

(注) (1) 合格国内機関投資家

(2) 発表に含まれなかったため、2007年の数字である。

三本が二〇〇八年末には五本と増えた。

貨幣市場基金 国庫券、巨額の譲渡性預金、商業手形、短期社債券等の短期有価証券に投資する。二〇〇三年一月成立の華安現金富利が最初であり、高収入階層の流動性管理で多くのニーズを吸収した。嘉実貨幣の運用例では債券が約五〇%、売戻条件付買入証券が約四〇%であった（二〇〇七年末）。貨幣型基金A級は年販売サービス費用〇・二五%、機関投資家向けに新たに作られた基金B級は〇・〇一%である。

指数基金 証券市場の各種価格指数を基準とする。伝統的なタイプに華安一八〇、大同一八〇、博時裕富、銀華—道瓊斯八八精選、長城久泰三〇〇、万家上証一八〇、嘉実滬深三〇〇、華安中国A株など、新たな上場基金タイプに華夏中小版ETF、華夏上証ETF、易方達深証一〇〇ETF、友邦華泰上証紅利ETFなどがある。指数に

は上証一八〇指数（上海取引所二〇〇二年七月一日開始）、上証五〇指数（上海取引所二〇〇四年一月二日正式公表）、中信標普三〇〇指数（中信証券・標準普爾が共同開発したA株基準指数、二〇〇四年三月一日開始）、上証紅利指数（上海取引所二〇〇五年一月四日正式公表）、中小企業板価格指数（深圳取引所二〇〇六年一月二四日対外公表）などがある。博時会社（二〇〇六年ごろ）の調査では個人投資家の六一%の投資収益は指数基金の示す収益に及ばない。株式型などと異なり、基金の間の業績の差は少なく、取引単位は低く、かつ取引費用は開放式の四分の一〜五分の一である。

基金の数は二〇〇九年六月初めには総計五〇一と報道された（株式型二四四、混合型二二一、債券型七七、貨幣型四二、元本確保型六、海外投資のQDII基金一一）。閉鎖式は三四である。

## 基金管理会社

基金管理会社の設立には法第一三条で登録資本一億元以上、主要株主が「証券経営、証券投資コンサルティング、信託資産管理又はその他の金融資産管理で良好な業績と信用を有し、直近三年間に違法行為がなく、登録資本三億人以上」その他が規定されている。基金管理会社の数は二〇〇五年度三三社、二〇〇六年度四五社、現在は六〇社を超えている。株式投資の管理能力の点では広発基金が常に上位にある。『基金精選二〇〇八』掲載の優良基金八六を運用する著名な基金管理会社は以下の三七社である。

広発、易方達、華夏、富国、上投摩根富林明、興業、長盛、嘉実、鵬華、建信、博時、国海富蘭克林、光大保德信、華安、景順長城、巨田、招

商、東方、匯添富、長城、華宝興業、中信、工銀瑞信、万家、南方、融通、泰達荷銀、中欧、中郵創業、諾安、大成、國泰、華富、天治、易民、銀河、友邦華泰

基金市場では開放式基金が主体であり、また多くの個人投資家を選択するのも開放式である。基金管理会社は開放式基金で一定の基盤ができた後、大衆投資家向けに債券基金、元本確保基金等の新たな品種を開発し、提供してきた。開放式基金の市場では、二〇〇一年に最初の基金を設定した華安基金管理会社が「開拓者」としてのイメージを独占しており、全国の販売地でネット上の販売が予約で一杯になるといわれる。基金は当初は単一の銀行が販売していたが、現在では多くの銀行・証券会社が共同販売している。

開放式基金販売のルート  
基金公司の直接販売 現場・電話・ファック

ス・ネット、自社基金  
商業銀行の営業店舗 現場その他、多種基金  
証券会社の営業部 現場その他、多種基金  
その他 保険会社、信託投資会社  
など

中国は日本以上に「間接金融」の国であり、巨額の預金を持つ銀行がまずは基金販売の先鋒となった。基金の側では現にある強力な銀行の機能を利用して当然、銀行のほうも労せずして店頭に多様な基金品種を用意できれば顧客の運用ニーズに合わせられ、共に「ウイン・ウイン」だったのである。さりながら銀行員は証券の販売には素人である。有価証券投資の実験経験を持つ顧客を有し、販売能力で優勢に立つ証券会社が、基金販売に入ってくるのも当然であった。証券会社の営業部は顧客のニーズを良く理解し対面のサービスが可能である。とりわけ大規模な一般向け宣伝を必

要とする開放式基金の販売ではこの営業部の能力が役に立つ。二〇〇二年以後、多くの証券会社が基金販売資格を取得した。基金設定当初は投資家の費用負担を抑えるためにも、既存の銀行や証券会社を活用するのが近道でもあった。販売対象はほぼ個人投資家と機関投資家が半々であった。

とはいえ、長期的に見れば基金管理会社の直接販売も必要であった。保険会社の販売網もそれなりに役立てられている。また、インターネット人口が非常に増えている現在、技術レベルが許し、安全が保証されれば、ネット販売のルートはさらに多くの投資家を吸引するであろう。二〇〇三年、招商基金は招商安泰系列基金の販売で率先して「ネット基金口座開設」を行なった。ネット販売には証券会社営業部へ往復し、店先に並んで待つなどの時間と煩瑣な手続きがない。二〇〇四年以後多くの基金会社は続いて「銀連通」「銀基通」

などのネット取引系列に進出した。主な利用者は機関投資家や大口個人投資家である。基金管理会社の直接販売が多くなるにつれ、銀行・保険・信託投資会社などの「相互乗り入れ」型の販売も現実に進んでいるようである。

開放式基金の発行期間にはさまざまな公告が行なわれる。基金の招募説明書は販売する銀行の公告やいくつかの専門『証券報』に載るが、これらを見る層には限りがあるので、最終的には『北京青年報』や『新民晚报』など大衆的な媒体を利用する。また、基金会社は会社株主、同従業員、同業機関、社会团体、新聞伝播媒体、政府機関及び消費者などとの関連をフルに利用し、銀行では営業人員に顧客に対する販売促進を行なわせている。

中国国内と外資との合資管理会社もかなり見られるが、注目されるのは二〇〇七年一月に成立し

た新基金でありながら同年末に好業績を出した中欧新趨勢であろう。投資株式は国内銘柄であるが、英国籍の運用担当者の腕が良かったらしい。それ以前四年間の合資会社は市場に対する刺激の意味はあったが、業績面では芳しくなかった。

## 基金の運用

一九九七年「証券投資基金管理暫行弁法」の規定では、基金の投資範囲は国債と、国内で法に依拠して発行・上場している株式に限られ、ポートフォリオの構成は株式に八〇%、国債に二〇%とされた。保有する上場会社一社の株式は基金資産の純資産価値の一〇%を超えてはならず、基金と基金管理人が管理するその他の基金が保有するあの一社の発行証券の総額は当該証券の一〇%を超えてはならない。基金の間の相互投資は禁止さ

れ、基金資産を抵当、担保、あるいは短期・中期等の貸付に用いてはならず、基金が証券信用取引等に従事することも禁止された。弁法成立以前の基金（老基金）には信託法の原理に合わない、規模が相対的に小さい、投資効率が悪い、流通ルートが不適切、ポートフォリオ構成が非常に不合理、リスク回避の能力に劣るなどの問題があったが、弁法以後は合併、資産整理などにより不良資産はすべて比較的流通性のある上場会社株式、国債あるいは現金資産に置き換えられた。二〇〇四年新法では弁法のような具体的な要件には言及されず、第五八条で投資対象を上場株式、債券及び監督部門が定めるその他の証券商品に限定すべきなどの抽象的な規定があるのみである。細目は基金管理者が定めて契約書に明記すればよい（第七条）。

実際に、業績が良いと評価される複数の株式型

基金の投資例を見ると、純資産の五〇〜一〇〇%を一銘柄に集中投資することは少ない。上位一〇銘柄に比較的多く登場するのは招商銀行、工商银行（二〇〇八年世界金融機関の時価総額ランキング（トムソン・ロイター）で一位）、浦東發展銀行などの全国的規模の銀行、瀘州老窖、三一重工、宝钢、武鋼、貴州茅台、蘇寧電器、万科A、中国石油、中国石化、中国神華、塩湖鉀肥、中国連通、長江電力、保険の中国平安、証券では中信証券などである。最近の報道では浦東發展銀行が招商銀行を抜いて筆頭の重点株になったようである。

基金市場は狭隘で、若干の証券会社、信託投資会社と基金管理会社等が基金の発起人となる資格を持ち、基金設立を申請する発起人と基金管理人は常に同一である。このため基金の管理権は独占的となり、基金発起人は投資者や基金所有者の利益よりも基金管理者の権益を代表する。その結果

が、関係者取引やインサイダー取引となって現れた。関係者取引とは基金管理会社が基金資産をその支配株主の新株発行、引受等のサービスに運用することで、高値で買い、低値で売る方式で支配株主に利益をもたらす。資金管理会社はすべて証券会社か信託投資会社中心の発起設立であり、主要な部署には親会社から多くの人員が来ているので、事態はさらに複雑になる。同一基金管理会社の中で複数の基金が相互に関係者取引を行なうこともある。インサイダー取引は一般に基金と上場会社の間に生じる。

また、現在の中国では基金管理人の行為に対して有効な規制がないとされる。一つには、契約型基金の受益者は管理人に資産を委託した後、受益者大会に出席できるが、日々の運用について投票権はない。保険会社など一〇%以上を所有する大受益者といえども同じで、資金の運用を決定する

## 2008年末業績上位10位の基金

株式型		債券型	
	1 泰達荷銀成長		1 中信穩定双利債券
	2 華夏大盤精選		2 国泰金龍債券 (A類) (注)
	3 金鷹中小盤精選		3 華夏債券 (A/B類)
	4 華宝興業多策略増長		4 博時穩定価値債券 (A類)
	5 華夏復興		5 大成債券 (A/B類)
	6 鵬華行業成長		6 華夏債券 (C類)
	7 嘉実理財通増長		7 博時穩定価値債券 (B類)
	8 泰達荷銀周期		8 大成債券 (C類)
	9 工銀瑞信核心価値		9 工銀瑞信増強收益債 (A類)
	10 嘉実成長収益		10 工銀瑞信増強收益債 (B類)

[資料] 銀河証券基金研究中心

(注) 同一基金名でA、B、Cなどの下位分類がある

のは二・五%所有の発起人である。これは株式会社の株主と同様の権限を受益者に望む議論であるが、実際には大受益者はある程度管理会社の政策に影響を与えうると考えられている。また一つには、基金受託者（商業銀行）は基金管理人が選ぶため、両者は独立した関係を保てない。現在の基金受託者市場は工商、建設、中国、農業及び交通の五大銀行の寡占状態で、とりわけ工商銀行のシェアが高い。興業、招商及び華夏などの中小銀行は資産一〇〇億元以下の基金を受託している。結局、基金に対する監督は主として（余り有効でない）政府（証監会）と市場（価格評価、世論）によるものとなり、事実上基金管理人の行為は野放し状態だ、と考えられているのだ。先に基金市場には「歴史遺留」問題はないとしたが、どうやら訂正しなければならない。数十年も前からの遺留問題ではないが、この一〇年にもいろいろな問

題が発生しているようだ。

二〇〇八年末の業績は前掲表の通りである。二〇〇八年には株式型はすべて欠損を出し、債券型の純資産増加率は九〜一二％であった。

### これからが本格的な運用

歴史的には中国基金の投資収益力は悪くはなかった。例えば、株式市場が絶好調であった二〇〇六年にはほとんどの基金の純資産価値は五〇％以上の年増加率を示した。しかしその利益を完全に享受できた所有者は三分の一もいなかった。長期保有が少なく、その一年内に購入したものが多かったからである。二〇〇四〜二〇〇五年の株式市場が大底を打つところに設定された株式型基金は黙っていてもその後の市場の絶好調で好業績を享受した。最初に適切なポートフォリオを構成して

いればよかったのである。株式型では好調時に九〇％以上を株式に投資し、二〇〇七年半ば以後の市場調整時にはこれを八〇％ぐらいに落す例も見られた。上海取引所総合指数は二〇〇七年一月二四日に過去最高の二九七五・一三点を記し、以後急落、二〇〇八年一月四日の一七〇六・七〇点を底に、二〇〇九年六月一日には二七〇〇点を超え、七ヶ月で一〇〇〇点の増大を記録した。大きな起伏を経験して、これからが基金の本格的な運用となろう。

中国基金業の弱点の一つに「羊の群れ」型行為がある。「バンドワゴン効果」に近いものだ。多数の基金が周りを見て同一の銘柄を追いかけて売買するため、株式市場で暴騰暴落を呼びやすく、基金が対象とする時価総額の大きい銘柄に激しい上下動が起さる結果となる。基金の数が顕著に増えたのに自分で判断できる運用者が養成されてお

らず、失敗を恐れる運用者が先導者の真似をして、比較的少ない数の銘柄に集中投資することが多いのだ。現行法第一六条は運用者の資格を「金取扱い資格及び三年以上の関連業務経験」としているが、つまりは大学を出て三〜四年のものが多いのだ。大部分の基金会社では傘下の各基金が九割がた同じような運用をしている。表面的には基金それぞれの投資特色があっても、内実は余り変わりが無いことになる。一〇本以上の基金が投資している株式（重点株）は四〇ぐらいある。基金の本年第一季報で筆頭重点株の浦東発展銀行株は一六一の基金が一五・九億株を保有している（流通株高の三二・七四％）。政策担当者にも近い投資機関である社会保障基金の投資行動は一種の風見鶏となり、基金を含む多数の投資家にとって「リーダー羊」の役割を果たすようだ。この弊害（同一方向への集中投資傾向）をなくすには、

投資・リスク対処の選択肢の拡大（上場会社を増やし、その内容を高める、適切なりスク回避商品の開発など）、独立性の高い適切な基金評価システムを作る（現在あるのは中信証券系）、投資家への情報公開の改善（上場会社関係と基金設立関係）及び運用者への適切な報酬体系（頻繁な運用者の交代を回避する）などが必要だとされる。

情報公開については「証券投資基金情報公開管理弁法」第五条で、公開されるべき情報は「基金募集説明書」「定期報告」から「不祥事があった際の整理公告」まで一六種類が規定されている。閉鎖式基金では証券取引所上場時に上場公告書が、開放式基金では六ヶ月ごとに公開説明書が必要とされる。中国企業の四半期は一〜三、四〜六、七〜九、一〇〜十二月で、基金でも一、二、三、四期の季報は四、七、一〇、翌一月に出される。二〇〇八年九月一日には国際基準に合致した

情報公開XBR L標準規範及び同モデル第一号

(季度報告)が公表された。

投資家からみて直接投資かプロの運用(基金)

かという問題もある。二〇〇八年九月現在、前者の損は三〇%、基金の損は五〇%といわれている。どうも基金の分は悪い。一九九〇年代中期以降、銀行、証券、保険そして投資基金会社がすべて個人資産運用業務に乗り出し、従業員も増えたが、統一的な運用業務標準と管理規範はなく、サービスの質量にも差があり、大多数の運用業務は商品設計と管理において初級レベルだともいわれる。中国人の退職後の生活の理想は「冬には海南島で太陽を浴び、夏には九寨溝に避暑に行く」である。理想の老後を手に入れるために基金投資は最適だといわれるが、投資家にも「市場の一員」として基金を育てる自覚が必要であるようだ。

(参考文献)

主編王在全『基金投資一本通』科学技术文献出版社、二〇〇七年

王群航編著『基金精選二〇〇八』武漢大学出版社、二〇〇八年

日本国際貿易促進協会『中国経済六法』二〇〇九年版

『中国証券報』

(こばやし かずこ・当研究所主任研究員)